

2022年4月8日

都道府県ライフセービング協会  
JLA加盟ライフセービングクラブ  
ライフセーバー 各位

JLAメディカルダイレクター  
JLA救助救命本部  
JLAアカデミー本部

### 頸椎損傷の疑いがある傷病者への頸椎カラーの使用禁止（伝達）

JLAメディカルダイレクターは「頸椎損傷の疑いがある傷病者への対応について（連絡）（平成29年6月14日）」において、頸椎カラーの使用について十分な知識と技能を有するライフセーバーに限定していましたが、現場の意見と最新の医学的エビデンスを踏まえ十分に検討した結果、2022年4月以降は、原則として頸椎カラーを使用せず、救急隊の到着を待つことを提案します。

#### 医学的エビデンス：器具による頸椎運動制限（JRCガイドライン2020, p.366-367）

ファーストエイドプロバイダーは、頸椎カラーを使用しないことを提案する（弱い推奨、非常に低いエビデンス）。ガイドライン2015での記載事項に加えて、頸椎カラーを使用することによる神経学的損傷の合併に関する症例報告や、バックボードと頸椎カラーを同時に使用し脊柱運動制限を行うと、その後の脊柱の触診で、脊椎・脊髄損傷がなくても圧痛を生じることを示した研究があった。わが国においても訓練を受けた者であっても頸椎カラーを使用しないことを提案する。

#### 医学的エビデンス：頸椎の運動制限（JRCガイドライン2015, p. 444-445）

ファーストエイドプロバイダーは、頸椎カラーを使用しないことを提案する（弱い推奨、非常に低いエビデンス）。負傷した傷病者に対する頸椎カラーの装着について臨床的な利点を示すよいエビデンスはなく、この対応は主に専門家のコンセンサスと伝統に基づいている。

（半）硬性カラーとカラーなしの比較では、

- ・神経損傷に有意差はみられなかった。
- ・合併症（頭蓋内圧）については、頸椎カラーの使用により、頭蓋内圧の上昇がみられた。
- ・合併症（1回換気量）について、換気量の減少は示されなかった。
- ・頸椎の動きについて、優位な屈曲制限を示さなかった（小児対象）。
- ・傷病者快適度について、快適度スコアに変化は示されなかった。

軟性カラーとカラーなしの比較では、

- ・頸椎の動きについて、屈曲と回旋は優位な減少を示した。

さらなる損傷を予防するというファーストエイドの原則に照らし合わせると、頸椎カラーの装着による潜在的な利点は、頭蓋内圧の上昇や不必要に頸を動かすことによって生じる害を上回るものではない。

以上